

平成29年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4～6月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。

平成29年4月から6月の種類同定検査件数は、2件でした。内訳は昆虫類1件(シロアリ目1件)、その他の節足動物1件(ダニ目1件)でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
庭にある朽木にシロアリが多数いる。	 <p>成虫(職蟻)、乳白色、約4mm</p>	ヤマトシロアリの働きアリ (シロアリ目)	ヤマトシロアリは、寒さには比較的強いが、乾燥には弱い。 常に湿った木材や土中で生活する。 加害箇所が巣を兼ねている。 高山や酷寒地を除く日本全土に分布する。
従業員数人が虫に刺されている。	 <p>成虫、淡褐色、未吸血個体、約1mm</p>  <p>成虫、赤褐色、吸血個体、約2mm</p>	イエダニ (ダニ目)	雌成虫は未吸血時には、体長約0.7～1.0mmで白色から褐色であるが、吸血すると1～1.3mmほどに膨満して、赤黒い色を呈する。 本来の宿主はネズミであるが、人も頻繁に吸血する。本種に刺された場合、激しい痒みを伴う小発赤・皮疹を起こす。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】